

勇 往 邁 進

地域に響け!世界に届け!

Sustainable Impact



公益社団法人 埼玉中央青年会議所

創立 25 周年記念誌

The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality;
and That service to humanity is the best
work of life.

JCI MISSION

To provide development
opportunities
that empower young people
to create positive change.

JCI VISION

To be the leading
global network of
young active citizens.

JC宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう



公益社団法人
埼玉中央青年会議所
第25代理事長

佐々木 隆浩

私たち公益社団法人埼玉中央青年会議所は創立25周年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに地域の皆様をはじめ、行政、各種諸団体、企業、各地青年会議所の皆様からのご支援、ご協力の賜物であると感謝を申し上げます。そして、高い志をもってこの地域で青年会議所運動に邁進してこられた埼玉中央青年会議所の先輩諸兄姉の皆様、創立の元となっている5つの青年会議所の皆様の積み上げてきた歴史と功績に心より敬意を表します。

私たちは創立以来、様々な運動を展開し、地域にインパクトを与えて参りました。この地域のいたるところに先人たちの足跡があります。直接目に見えるもの、文化や風習として根づいているもの、形は様々ですが確かにそこにあるのです。近年では「ひとづくり」「まちづくり」「組織づくり」の3つを柱として「運動構想ビジョン2015」を策定し、2017年には多くの皆様のご協力のもと、公益社団法人日本青年会議所 第66回全国大会埼玉中央大会を開催させて頂きました。その際に得たつながり、成長を糧にさらなる運動を展開し、より良い地域の発展に寄与することが、皆様に対する恩返しであると考えております。

本年、世界の各地で猛威をふるっている新型コロナウイルスにより、経済活動はもちろん、青年会議所活動にも大きな影響を受けております。しかし、埼玉中央青年会議所の歴史を紡いでこられた先輩諸兄姉の皆様も、その時代における様々な社会の変化に対応してきました。こんな時代にこそ、私たち青年経済人だからこそできることがあるはずです。継承されてきた志を胸に未来の地域のため、次代を担う子供達のために、勇気をもって運動に邁進していくことをお誓い申しあげ、創立25周年記念の冒頭のご挨拶とさせていただきます。



埼玉中央青年会議所
シニア会
会長

門崎 由幸

公益社団法人埼玉中央青年会議所が創立25周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

さて、1996年9月3日、それぞれに歴史と伝統を持つ、与野・大宮・浦和・上尾の青年会議所が英知と勇気を振り絞り統合し、全国で766番目の青年会議所として創立をしました。そして2004年、市民が誇りに思える真の自立都市実現に向け、郷土を愛し、同じ理想に燃え、強い使命感を持った社団法人岩槻青年会議所のメンバーの仲間も加わりました。

共通する原点として、「自分達のまちは、自分達で責任を持って創ろう」「きたるべき21世紀の社会における理想のまちづくりを行おう」「愛する我がまちだから、夢を形に変えていこう」「時代を切り拓くのは我々青年の使命である」という青年としての気概がありました。常に時代の先駆者であり続け、積極的変化を創り出し地域社会の発展に寄与していこうとする、青年としての熱きエネルギーが、社団法人埼玉中央青年会議所を創り出しました。

そして2017年、念願の第66回全国大会埼玉中央大会の開催は記憶に残る大会でありました。開催が目的で終わらせることなく、この経験を生かし次のステップを創造し変化のスピードが速い時代に、それよりも速く青年会議所運動の方向性を見極め、どのような社会と人間の開発が必要なのか、市民のニーズを感知し運動展開をして頂く事と、先駆者が築き上げてきたものを礎とし、そこから新しい考えや価値を見出し発展し更なる地域に必要とされる組織を創り上げてください。

また、地域の主人公となる、市民・NPO・企業・行政それぞれが、「自由と責任」「権利と義務」をしっかりと認識し、自分たちが生活するまちの問題を自分の事としてとらえ、自分の事は自分で責任を持ち、地域社会を自分達の手で創造する人材を増やしてください。

誇りに思うJC運動とそれを支える英知と勇気と情熱を分かち合う頼もしい後輩の益々のご健勝を祈念してお祝いの言葉と致します。



公益社団法人
日本青年会議所
第69代会頭

石田 全史

この度、公益社団法人埼玉中央青年会議所が創立25周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。また、平素より公益社団法人日本青年会議所の運動に多大なるご理解・ご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

本年度理事長の佐々木隆浩君のもと、「勇往邁進～地域に響け！世界に届け！Sustainable Impact～」のスローガンを掲げ、現在のコロナ禍においても運動・活動を通し、今出来ることを一歩ずつ進めてこられ、明るい豊かな社会を実現するために邁進する姿は青年会議所の規範とするところであります。連綿と受け継がれている25周年の重みを受け止め、創始の精神を令和という新しい時代に紡ぎ、新たな挑戦を掲げられている貴青年会議所に、心から敬意を表するとともに万全の態勢でご支援させていただきます。

また、貴青年会議所におかれましては、活動地域における課題に対して、挑戦を続けるリーダーとして、社会を変える起点となる運動を展開されることを改めてご期待申し上げます。本会と致しましても、地方の課題解決に向けた政策を推し進めて参りますので、深いご理解のもと、引続きのご支援、ご協力を賜るとともに、大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに、活動地域において素晴らしい成果を出されること、先輩諸氏、現役会員の皆様にとって実り多き一年になられることを心より祈念いたします。

先入観を捨て

夢を描き、仲間を信じて、新しい時代を創りだそう

軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう



公益社団法人
日本青年会議所
関東地区協議会
第66代会長

大崎 厚郎

公益社団法人埼玉中央青年会議所創立25周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げますと共にJC運動を絶やすことなく続けられている貴青年会議所に改めて感謝と敬意を表させていただきます。また、関東地区協議会の運動に対し深いご理解と多大なるご協力を賜っていること、心から厚く御礼申し上げます。

さて、本年は佐々木隆浩理事長の掲げる、勇往邁進～地域に響け！世界に届け！Sustainable Impact～のスローガンのもと、多様な方々と結びつきながら運動を展開されており、今後もメンバーの皆様が一丸となり力強い歩みを続けられますことをご期待申し上げます。

結びとなりますが、埼玉中央青年会議所メンバー皆様のご多幸とご健勝、そしてこの記念すべき年を輝かしい一歩として、益々ご発展されますことを心よりご祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



公益社団法人
日本青年会議所
関東地区
埼玉ブロック協議会
第53代会長

内田 剛史

公益社団法人埼玉中央青年会議所創立25周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。公益社団法人埼玉中央青年会議所におかれましては創立25周年という節目の年、佐々木隆浩理事長のもと、「勇往邁進～地域に響け！世界に届け！Sustainable Impact～」を基本理念に掲げ、世界に目を向けた先進的な運動を展開されており、埼玉ブロック協議会としても深く感銘を受けるところでございます。

本年度、埼玉ブロック協議会では、「志高く」～大きな挑戦が、輝く埼玉をつくる～をスローガンとし、未だかつてない社会情勢の中で、様々な可能性を模索し、過去に囚われることなく大きな挑戦をして参りますので、今後ともご理解、ご協力をいただけますと幸いです。

最後に、公益社団法人埼玉中央青年会議所の今後ますますのご発展をご祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立宣言文

21世紀に向けて、今大きな変化を成し遂げようとするこの地域に郷土を愛し、同じ利用に燃え、強い使命感を持った青年が集結した。

我々は市民社会の一員として、市民と同じ生活基盤を立ち市民の共感を求め、希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会を実現するために、自己の研鑽を図り、青年としての英知と勇気と情熱を持って未来に向かって前進を続けなければならない。

今、我々が誇りに思える真の自立都市実現を目指して、我々の住む地域社会のために、常に進歩への果敢な挑戦を行い時代の旗手たらんことを誓いここに埼玉中央青年会議所の創立を宣言する。

沿革

1996年9月3日

大宮青年会議所、浦和青年会議所、上尾青年会議所、与野青年会議所が解散、統合。埼玉中央青年会議所設立。

1996年10月26日

日本青年会議所第10回理事会にて「埼玉中央青年会議所入会(案)承認に関する件」が全会一致にて可決。

2004年

岩槻青年会議所が合流

2012年3月9日

公益社団法人格を取得し、公益社団法人埼玉中央青年会議所へ。

創立25周年に寄せて



大宮青年会議所
シニア会会長

平田 繁 様

「形に囚われない、本当に役立つ活動を」

1995年1月の「阪神淡路大震災」、2011年3月の「東日本大震災」と、この日本が、日本国民が大打撃を受けた時に、全国のネットワークを使って、いち早くネットワーク良く救援物資を集め、トラックで駆け付けたのが青年会議所の仲間たちでした。現在の「新型コロナウイルス」の蔓延には、大変難しい対応となりますが、この1,2年の青年会議所の形に囚われない、本当に役立つ活躍が数年後には、誇り高き記憶として語り継がれるのです。



浦和青年会議所
OB会会長

桶本 毅 様

公益社団法人埼玉中央青年会議所の皆様、創立25周年を迎えられた事衷心より御慶び申し上げます。誠にありがとうございます。若さがあれば何事にもチャレンジできます。失敗を恐れず一丸となって明るい豊かな社会の構築に邁進して頂きたいと思っております。貴青年会議所の益々のご隆盛を祈念するとともに引続き皆様に対しての物心両面にわたる援助を浦和青年会議所OB会としてお約束し祝辞とさせていただきます。



上尾青年会議所
OB会代表世話人

石倉 正仁 様

創立25周年おめでとうございます。上尾JCの25周年は、1990年であり、既に4JCの統合に向けた過程にありますが、上尾JCが一番盛り上がりつつあった時代でありました。初めて会員数が100名を超え、記念事業も盛大に行われました。当時、社会問題になっていた環境問題に取り組み、オレゴン州ポートランドへ視察に行く事業などが行われました。その6年後、私が理事長の時に、埼玉中央JCの創立に至った訳ではありますが、いつの時代においても、青年会議所の運動は、地域と共に、夢と理想を追い求める運動であって欲しいと願っています。青年らしく前向きに。



与野青年会議所
シニアクラブ会長

小峯 宣昭 様

公益社団法人埼玉中央青年会議所、創立25周年誠にありがとうございます。創立当時は私もまだ現役で、創立記念式典・祝賀会はたいへん多くのご来賓と、友好青年会議所会員の見守る中、開催した調印式・祝賀会は見事なものでした。

新型コロナウイルス感染予防にて活動が制限されておりますが、この時こそ出来る事、やるべき事を考えて頑張ってください。応援しております。



岩槻青年会議所
OB会会長

内藤 明 様

公益社団法人埼玉中央青年会議所創立25周年に当たり、岩槻青年会議所OB会を代表して心よりお祝いを申し上げます。青年会議所を取り巻く環境は日々変化しています。その中で果敢に人づくり、まちづくりに活動する現役会員の皆様を見て勇気を頂いております。当OB会は現役会員皆様の支援をお約束し、今後もJC活動の理念を胸に抱いて臆することなく、JC活動に邁進して頂くことを心よりお祈り申し上げ、創立25周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

埼玉中央青年会議所 歴代理事長とスローガン(2009年までの歩み)

1996

大好きなまちと
愛するひとのために
勇気をだして踏み出そう
大いなる「始めの一步」



初代理事長
清水 良朗



1997

未来をみつめ広域を愛し今、
青年の勇気が
21世紀をかえる



第2代理事長
山口 一男



1998

行動元年“いま新たなる
21世紀(時代)”へ
熱意をもって
動き出そう



第3代理事長
小田嶋 雅美



1999

大いに語ろう
大きな夢を



第4代理事長
阪本 克己



2000

WE CAN FLY!
変革への挑戦



第5代理事長
菅野 覚巳



2001

創ろう 心でつなぐ
人・地域・未来



第6代理事長
齋藤 博重



2002

“今こそつなごう”
心の和



第7代理事長
星 浩隆



2003

新たなる道の創造・
やるぞ!
本気のJaycee道



第8代理事長
三原 宏治



2004

今、この時
英知を結集し
克己の行動!



第9代理事長
住吉 望



2005

心の豊かさが変化を創る
行動しよう未来のために



第10代理事長
門崎 由幸



2006

創始の精神と創造の精神
次代は我々に期待している



第11代理事長
金子 一夫



2007

輝かそう誇れる地域を
すべては
愛する笑顔のために



第12代理事長
漆原 誠



2008

立志創新
今こそ変革の能動舎として
~Jayceeの志が
社会変革の原動力~



第13代理事長
北 清太郎



2009

情熱果敢
~生きる喜びを
実感できる都市想像~



第14代理事長
江原 大輔



2010

「感動発信」

基本理念

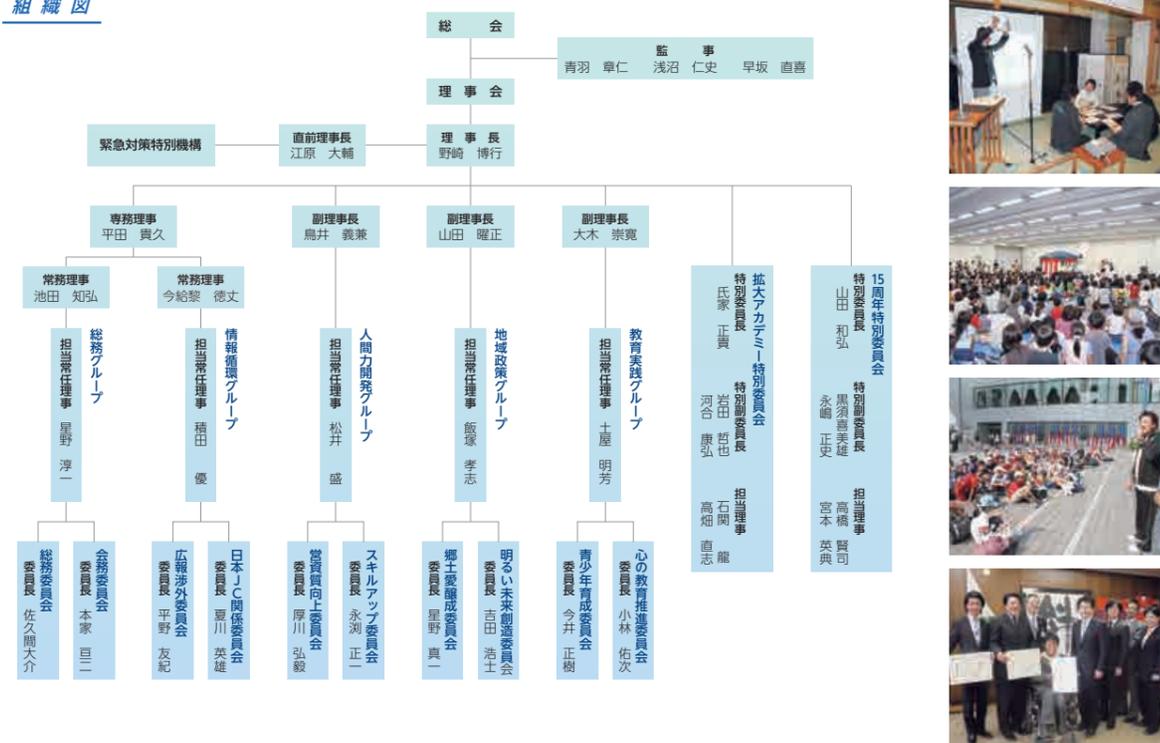
基本方針 地域で進める心豊かな青少年育成
魅力溢れる明るいまちづくり
志高く成長し続ける人間力の研鑽
率先して行動する強い絆の組織づくり

スローガン ~今こそ行動しよう、
愛するまちの夢溢れる未来のために~



第15代理事長 野崎 博行

組織図



本年めでたく創立25周年を迎えられること衷心よりお祝い申し上げます。私が理事長を務めた2010年には、15周年記念事業として、「感動発信」をキーワードに地域の青少年数千人を対象とした事業を金塚公園、ソニックシティを使用し開催しましたが、このような状況下では、青年会議所の最も得意とする共に汗を流して対外に対して人を集めるような事業が行えずとも残念に思います。過去に経験がない収束の見えないコロナの状況下、激しい環境変化景気低迷等々、私たちを取り巻く状況は厳しいといえます。だからといって「環境が悪い」「状況が厳しい」と言っているだけでは状況は変わりません。悔やむのではなく糧として、今後に繋げて行くことこそ青年会議所の本分だと考えます。青年会議所には人間を成長させる機会がたくさんあります。むしろこのような状況下だからこそ、それに挑戦し「どうしていくのか!」を示すことが必要だと考えます。つまり、逆境や過去にとらわれず、前例のないことに挑戦できる機会でもあるわけです。前例が無い、だからこそやる。メンバーの英知を結集して、若い発想力と想像力そして行動力を活かし、新たなツールを活用して理想に燃え明るい未来を描きこの先の新たな青年会議所運動を進める機会と前向きに捉えて、この難局に立ち向かってください。夢に向かいそれを達成するために、「かならずできる」という前向きな思い、必ずやり遂げるという気概を持ち、一步一步着実に、力強く進んでいくその情熱こそが大切な要素になります。今すぐ出来ることが、必ずあるはず。それを現実にするために率先垂範し若さと希望に溢れ、未来に向かって前進を続ける団体をめざして、格好だけのJC運動でなく、今一度原点に立ち返ってメンバーが共に汗をかき、泥臭く大切な仲間と感動を共有できる充実したJC運動を実践してください。

2011

「創意挑戦」

基本理念

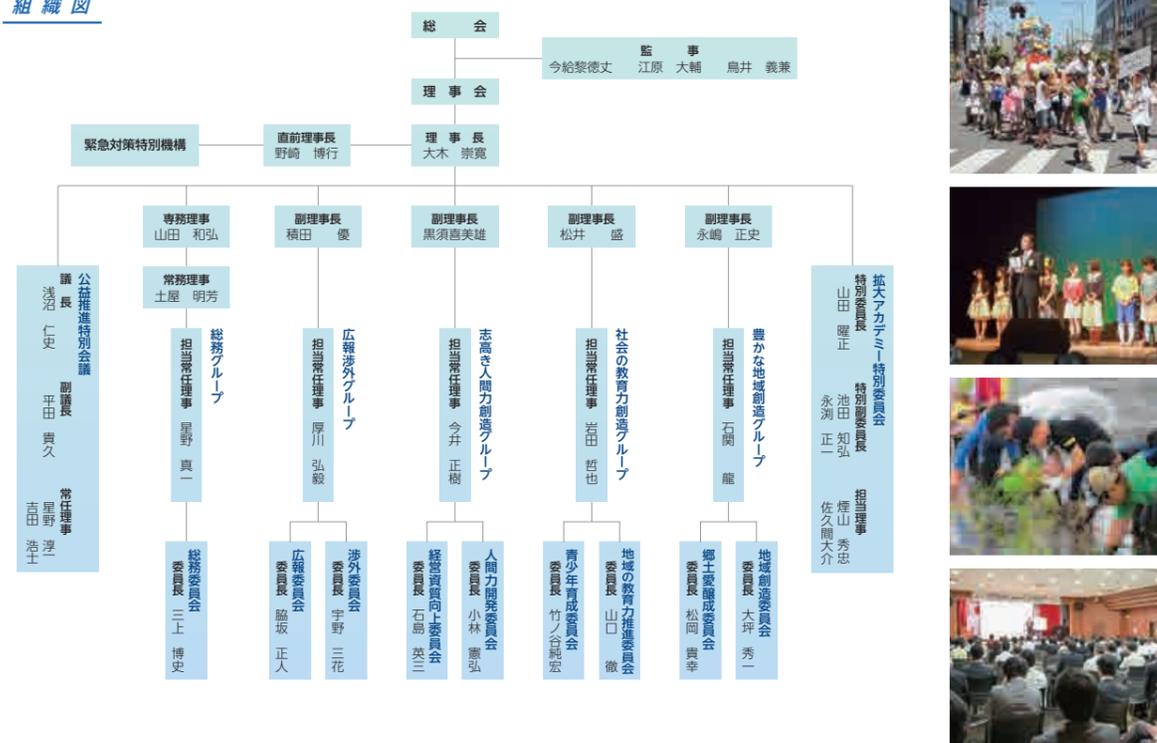
基本方針 心豊かな魅力ある地域創造
次代を担う子どもの夢創造
未来を切り拓く人間力創造
志高く魅力溢れる組織創造

スローガン ~心豊かな希望溢れる
社会を創造するために~



第16代理事長 大木 崇寛

組織図



現役の皆さん創立25周年誠におめでとうございます。私が理事長を務めた2011年は言うまでもなく東日本大震災の年でありました。突然襲った大きな揺れのあと、テレビをつける津波がまちをのみ込んでいく映像が写し出され、まるで映画を見ているようなそんな錯覚に陥ったことを今でも鮮明に覚えております。それからは連絡がとれないなか、メンバーの安否を第一優先で確認し、順次スタッフに集ってもらい、今後の対応を緊急会議で決定してまいりました。青年会議所の素晴らしいところはその行動力と組織力だと思います。震災での支援活動や初動はJCが先行し、社会福祉協議会とも連携をとりながら支援活動を進めることとなりました。被災地への支援物資もJCが先行していたと聞いております。また、OBの皆さんとの連携にも助けられ、金銭面で見切り発車だった支援活動もマイナスをだすこともなく無事終了することが出来ました。震災により予定者から積み上げてきた計画は大きく軌道修正を迫られましたが、この体験により自然災害の恐ろしさと、改めて青年会議所の組織としての素晴らしさを再認識した出来事となりました。現在コロナ禍により新しい生活様式やビジネスなど、様々な行動変容が話題に上がります。こんな時こそ現役の皆さんは先取の精神で時代を先読みし、この組織力を生かして持続可能な社会実現に向けての提言や行動を積極的におこなってほしいと思います。今までがそうであったように、これからも社会から必要とされる組織でありつづけるためJCしかできない運動を展開してください。さらなる皆さんのご活躍を期待しております！

2012

「維新伝心」

基本理念

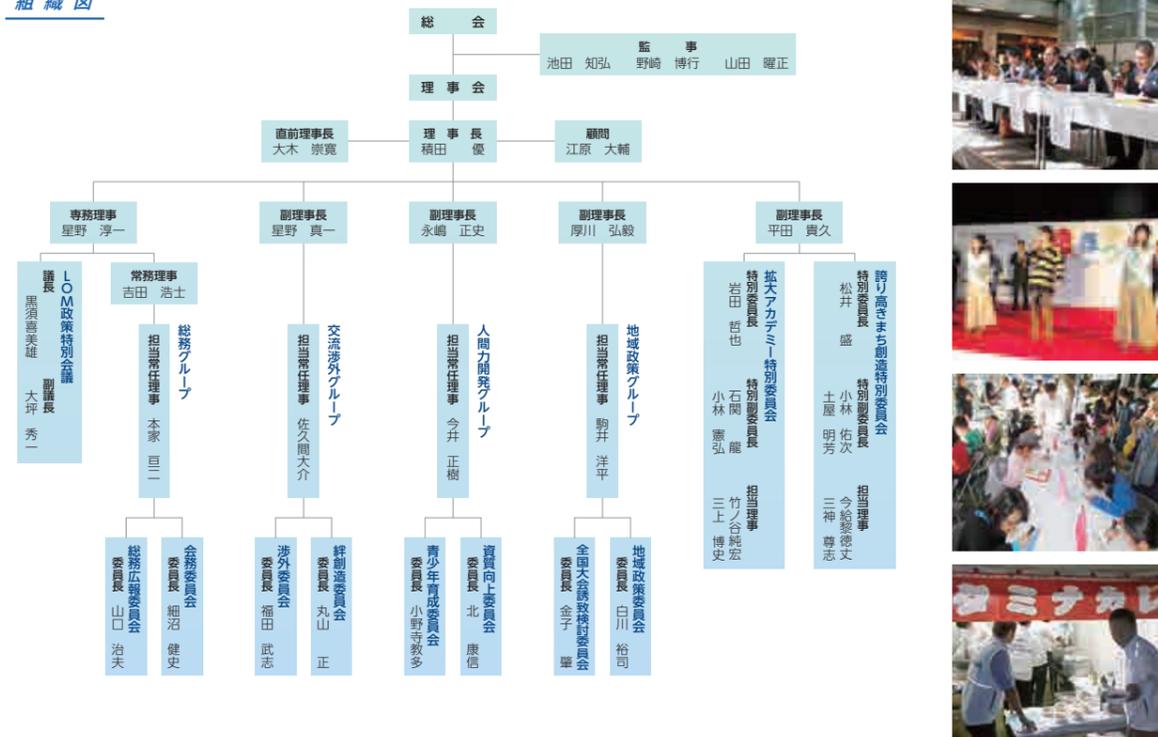
基本方針 希望が溢れ魅力ある地域力の創造
 明日を創る逞しい人間力の創造
 絆で繋がれた向上力漲る JAYCEEの創造
 社会に貢献する真につよ組織力の創造

スローガン ~維新の気概を胸に！「生き抜く力」が
 溢れる希望に満ちた未来のために~



第17代理事長 積田 優

組織図



2013

「相互革新」

基本理念

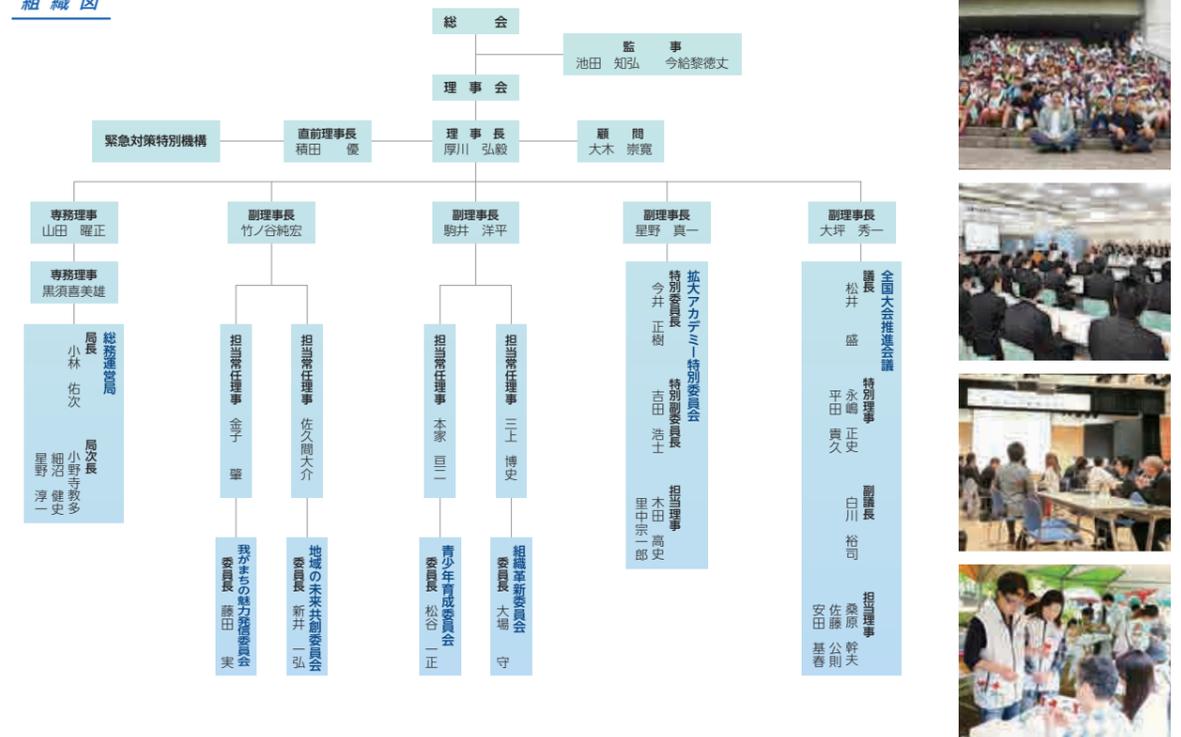
基本方針 地域の魅力を活かした夢溢れる青少年の育成
 誇り高く情熱的な会員の拡大運動
 未来へと繋がる我がまちの魅力創造
 組織の革新を実現する人材の創出

スローガン ~己の革新が輝き
 誇れる我がまちの創造を実現する~



第18代理事長 厚川 弘毅

組織図



創立25周年を迎えましたことをお慶び申し上げますとともに、これまでお支え頂いた関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。私が理事長をした2012年度ですが先輩諸兄が多く時間をかけ道筋を作って頂いた全国大会誘致の実質始まりの年でありました。

全国大会は、「獲るまでが茨の道」、「獲ってからが修羅の道」と良く言われますが本当に大変な運動でした。私の年度では結果は残せませんでした。後輩達が運動を繋いでくれて2014年度に松山で誘致決定・2017年度には本当に素晴らしい第66回全国大会をこの地で開催してくれた事が私の誇りでもあり感謝の気持ちでいっぱいです。しかし大切なことは開催出来たことだけではなくプロセスとその後の運動にあります。誘致の意義は青年会議所の運動意義と同じであります。「地域の問題点・課題点を明確にし解決に導くこと」・「地域の様々歴史や精神性を踏まえた魅力や宝を探索し更に昇華させること」、この運動を出来る人を育成しそのような組織にすることであります。更にこの運動を様々な人々や行政・諸団体と連携・協同し運動を大きくし地域をより良くし続けることです。後輩の皆さんにとっては何回も聞いている言葉であると思いますが是非この意義を忘れることなく大会を開催した組織にすることに自信と誇りをもって頂ければと思います。

結びに、現在新型コロナウイルスの流行もあり大変な状況であると思いますが、変化の速い時代の中で、1年1年を積み重ねて、この地域の発展のため、世のため、人のため、そして自分の成長のために、これらからも活動をし続けて行く埼玉中央青年会議所の活躍に期待をしています。

まずは、新型コロナウイルスに罹られた方々またお亡くなりになられた方々にお見舞いとお悔やみを申し上げます。

本年、公益社団法人埼玉中央青年会議所が現役会員の皆様そして先輩諸兄による不断的努力により創立25周年を迎えられたこと衷心よりお祝いを申し上げます。

この四半世紀、未曾有の自然災害や日本経済の不況等、様々な不測の事態があったかと思えます。そして現在、世界的なコロナ禍において全人類に対して困難な局面を迎え人々の生活が脅かされています。しかしながら、今日までの難局を乗り越え不屈の精神で紡いできた埼玉中央青年会議所であればこの現状を打破し、未来にある明るい豊かな社会の実現に向けて運動を継続し更なる発展を遂げる事ができると信じています。

私が第18代理事長を務めた2013年度の青年会議所運動を振り返ると、地域においての運動はもちろんのこと埼玉ブロック会長の輩出そして全国大会の主管を獲得するための年度でした。その務めを全うする為、考えられる全てのことを実行し全身全霊、怒涛の日々を邁進したと感じていますが結果は自身の力量のなさを痛感するに至り反省する限りです。その経験をもとにあえて現役の皆様へ伝えたいのは、埼玉中央青年会議所の矜持をもって英知を結集し今まで紡いできた協力関係を存分に活かし今できる限りの事を全うすることです。今も、そしてこの先も青年会議所への期待とニーズに応じて続けていきたいと思います。

結びに今後の埼玉中央青年会議所が新しい時代を切り開き更なる飛躍を遂げることを祈念するとともに会員各位のご健勝ご活躍をお祈りししてお祝いの言葉とします。

2014

「青年の輝きが地域を照らす
明日のために行動する JAYCEEたれ!!」

基本理念

基本方針

心豊かなひとづくりの実践
魅力溢れるまちづくりの実践
市民意識の変革に繋がる運動
活力溢れる組織運営

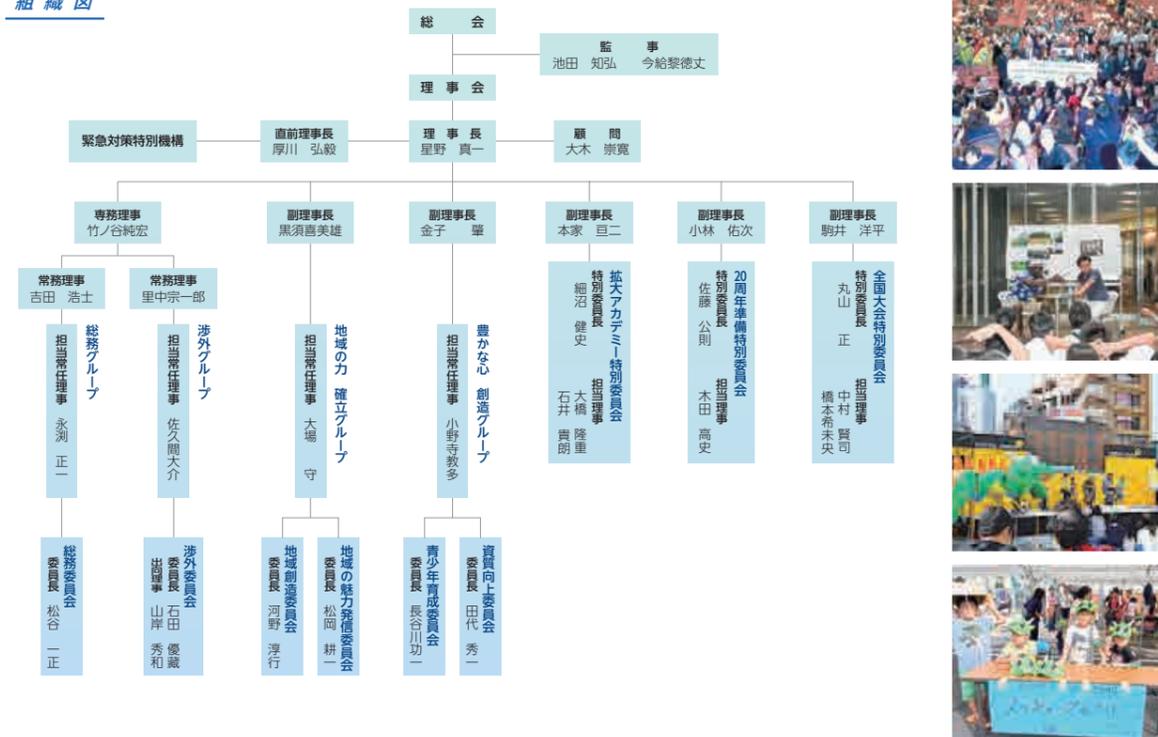
スローガン

～心豊かな地域の創造に向かって～



第19代理事長 星野 真一

組織図



2015

「一意邁進」

基本理念

基本方針

希望(ゆめ)が溢れる社会の創造
会員拡大と修練による強靱な組織の構築

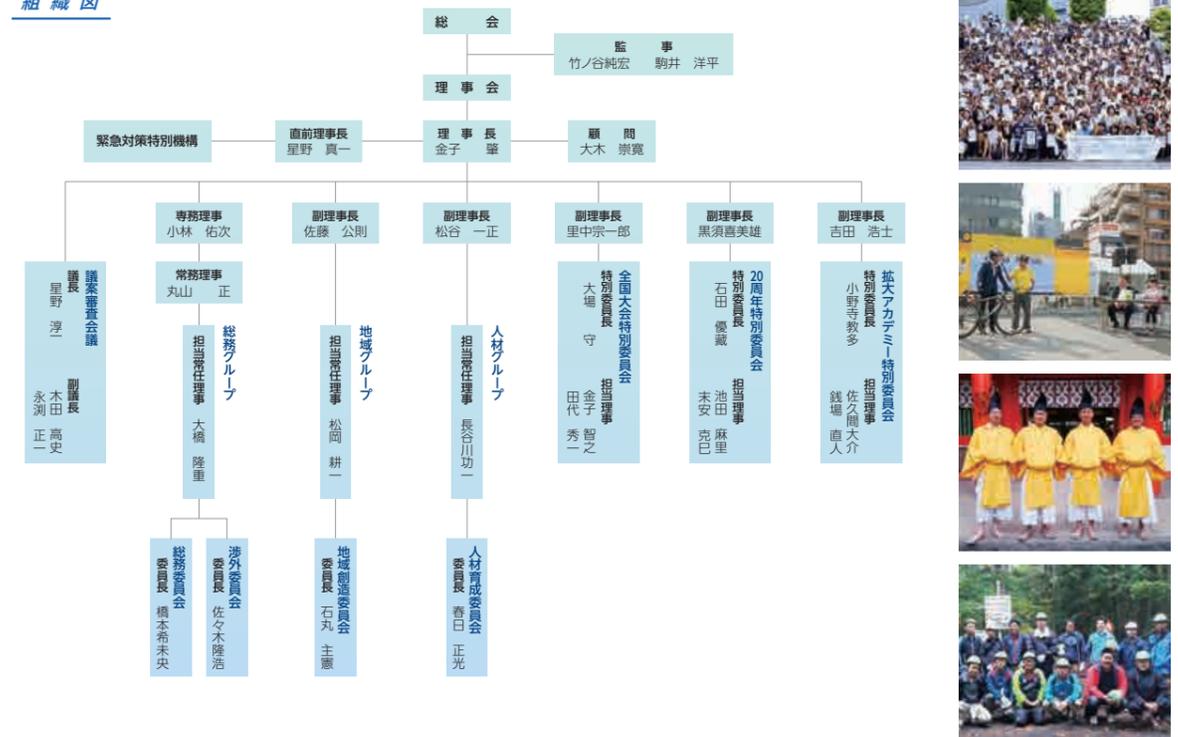
スローガン

～明日を今日より素晴らしきものに～



第20代理事長 金子 肇

組織図



公益社団法人埼玉中央青年会議所が、本年創立25周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

1996年の設立以来、長きに渡り脈々と受け継いでこられた先輩諸兄をはじめ、今も尚、「明るい豊かな社会」の実現に向けて、日々活動を続けている現役メンバーの皆様にご敬意を表すると共に、私自身、歴史の1ページとともに活動させていただいたことに改めて感謝と御礼を申し上げます。

時が経つのも早いもので、私が青年会議所を卒業してから早5年が経とうとしていますが、在籍中は人生の学び舎として多く経験を積ませていただき、様々な自己成長の機会に恵まれました。先輩諸兄からいただいた学びや、そこで生まれた仲間との絆は、今でも一生の宝となっております。全国大会の誘致の取り組みにおいても、誘致理念の作成から、メンバー総出で全国各地を飛び回ったことを懐かしく思います。私が理事長時代に朗報を届けられたのも、先輩諸兄のご努力をはじめ、当時活動を共にした仲間との英知と勇気と情熱の結集の賜物であると確信しております。

現在はコロナ禍で激動の時代と言われていますが、40歳までという限られた時間の中で、真剣に議論を重ね、時には意見がぶつかり合うこともあるかもしれませんが、メンバー同士支え合いながら、新しい発想と若い行動力で、新たな時代を切り拓いていくことを期待しております。必ずそこで得た多くの経験や出会いが、生涯の財産になるものと確信しております。

結びに、創立25周年を契機といたしまして、公益社団法人埼玉中央青年会議所の皆様の今後益々のご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

私が理事長を務めました2015年は全国大会主管が決定した翌年であり、創立20周年の年でもありました。全国大会のPRのために全国各地をメンバーやシニアの先輩と共に周り、様々な人達と交流することは非常に楽しい経験でした。20周年記念事業についてはヨーロッパ野菜を使ったSAIパスタの料理教室を鐘塚公園で行いました。世界ギネス記録にも挑戦し、多くの皆様のご協力もあり、世界ギネスを獲得することができました。しかし事業構築の段階では侃々諤々の議論がありました。なぜパスタなのか、世界ギネスなのか、といったひとつひとつにこだわり、確りとした理由付けを行うようにしました。

この団体は名前の通り、委員会、理事会等の様々な会議があります。その中で間違いや恥をかくことを恐れず自分が感じたこと、思ったことを発信することは自分という人間を周りに理解してもらうことであり、また、人の意見を聞くことでその人間を理解する機会を得られるということでもあります。そのような繋がりの中で、卒業後もこの人とは付き合っていきたいと思えるような人一人でも出会えたなら、それだけでJCに入会した意味があったのだと私は思います。

コロナウイルスによる未曾有の事態に現役メンバーの皆様も家庭、会社運営に多大な支障をきたしていると思います。このような時は自分さえ良ければ、という利己主義が行き過ぎることが往々にしてあります。このような時だからこそ、人のため、地域のために存在するJCの存在意義は重要さを増すと思います。制限が多い中で何かを成すことは大変困難なことだと思いますが、JCならではの知恵と勇気をもってこの事態に立ち向かってもらいたいと思います。

2016

「彩志奮迅」

基本理念

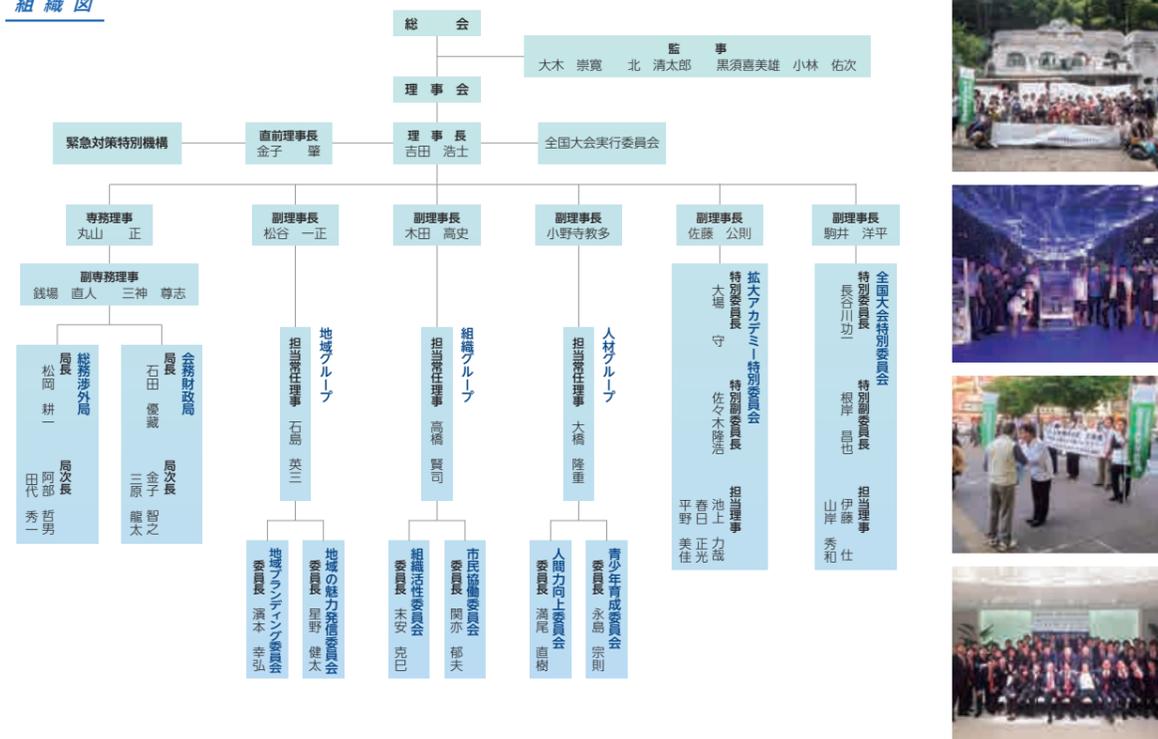
基本方針 人間力に満ちた人材の育成
展開力ある組織の構築
活力ある地域の創出

スローガン ~奮い立たせよう彩りある志
希望(ゆめ)のちから溢れる未来のために~



第21代理事長 吉田 浩士

組織図



公益社団法人埼玉中央青年会議所が創立25周年を迎えることができましたことに心からのお祝いを申し上げますとともに、青年会議所で多くのことを学ばせていただいたシニアの一人として大変嬉しく思っております。

理事長を務めさせていただいた2016年度の1年間は基本理念に「彩志奮迅」、スローガンに「奮い立たせよう彩りある志 希望のちから溢れる未来のために」を掲げ、青年会議所運動を行って参りました。人間力に満ちた人が展開力ある組織をつくり、展開力ある組織が活力ある地域をつくり、活力ある地域が「明るい豊かな社会」をつくる。全ては未来を生きる人のために、まず我々が人や組織や地域の本来あるべき姿を希望として描き、その実現に向けて個性豊かな彩りある志を激しく奮い立たせ、青年会議所運動を一心不乱に邁進していこう。これが基本理念「彩志奮迅」に込めた思いでありました。現代の社会は政治、経済をはじめ自然災害やコロナ禍の影響など様々な要因で常に混沌としています。いろいろな物事が入り混じっている状態を示す混沌は、JC宣言文にあるように、未知の可能性を切り拓くためのエネルギーが充満している状況であります。この状況を好機と捉えて、世のため人のために何が出来るのかを考え、率先して行動するのが我々青年会議所の使命であります。つまりは、混沌とした状況の中にこそ、皆の英知と勇気と情熱を集め、その力を発揮しなければならないのです。

青年会議所の理念や運動は現役・シニア問わず普遍の原理かもしれませんが、青年会議所活動は現役会員だけが行える特権です。失敗を恐れずに「彩志奮迅」に努め、さらに埼玉中央青年会議所が発展していくことを切に願い、創立25周年のメッセージと致します。

2017

「全ての行動は 愛する人々と 地域のために」

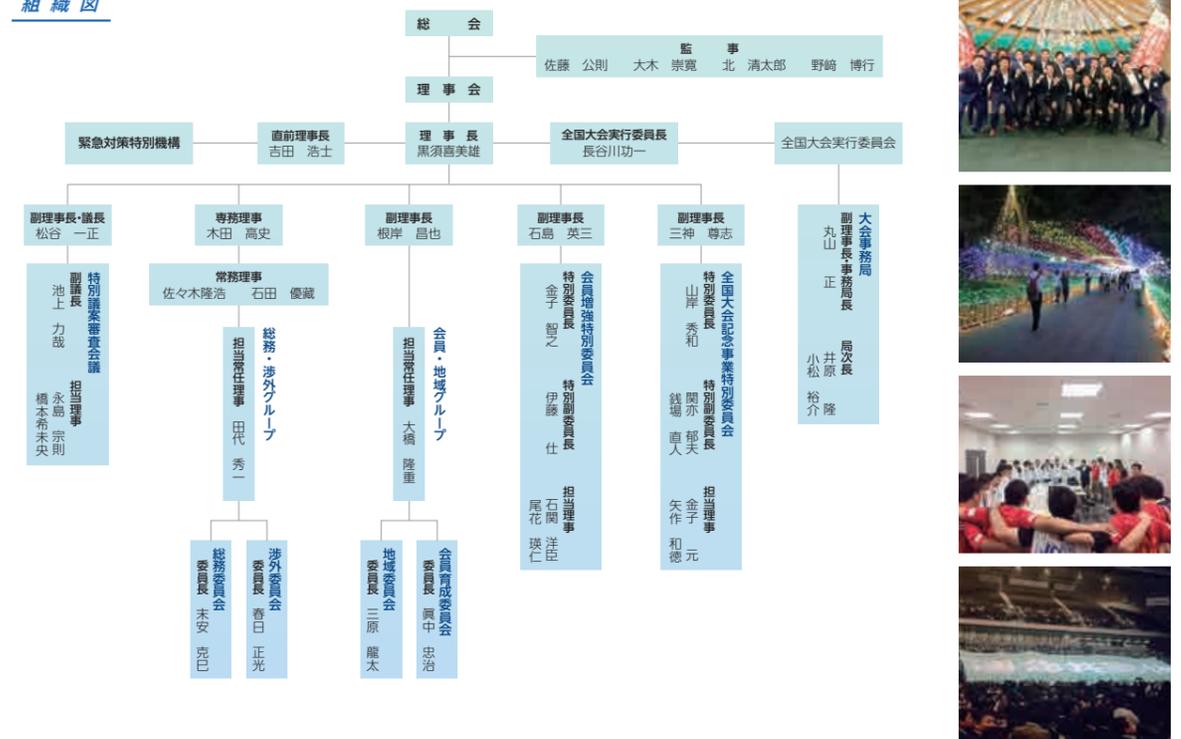
基本理念

スローガン ~「夢の力」で未来を変える~



第22代理事長 黒須 喜美雄

組織図



私が理事長を預らせて頂いた、2017年はまさに公益社団法人日本青年会議所 第66回全国大会 埼玉中央大会一色の1年でした。この全国大会は埼玉県で初めての開催となる大会で、行政、地域諸団体、多くの青年会議所メンバーの皆様が支えがって開催にこぎつけられたものと確信を致しております。「いつかは全国大会が出来る青年会議所に」という先輩諸兄から引き継いでこられた想いを、当該年度、理事長として全国大会に向き合わせていただくことができました。2017年9月28日から4日間の開催期間、またその開催期間に至るまでの、長く永い道のりを歩み続けることができたのも多くの皆様、たくさんのメンバーのご支援、ご協力があったからです。本当に感謝を申し上げます。早いものであれから3年が経ちました。現役の青年会議所メンバーは今一度、全国大会の経験を活かし地域から青年会議所運動を大きく展開していかなくてはならない責任があります。今後10年、20年と連続と受け継がれていくであろう青年会議所運動をぜひ邁進してください。

また、近年の全国大会は台風や自然災害、そして、本年はコロナウイルスにより全国大会自体をWEB開催に変更を余儀なくされました。しかし、埼玉中央青年会議所のメンバーはこの状況にも必ず未来を開いていける人材の宝庫だと思います。一人ひとりが英知と勇気と情熱をもって、地域の光となって頂きたいです。

運命共同体として多くの繋がりや形にさせることができた埼玉中央青年会議所は今後、幾多の事象に対しても、正面から真摯に向き合い解決に導いていく、強い志と覚悟をそして何よりも多くの絆があります。25周年を迎えた埼玉中央青年会議所により一層の期待をしていますので是非力を合わせ、未来を切り開いてください。

2018

基本理念

「感謝」

～私たちの笑顔が
まちを変える～

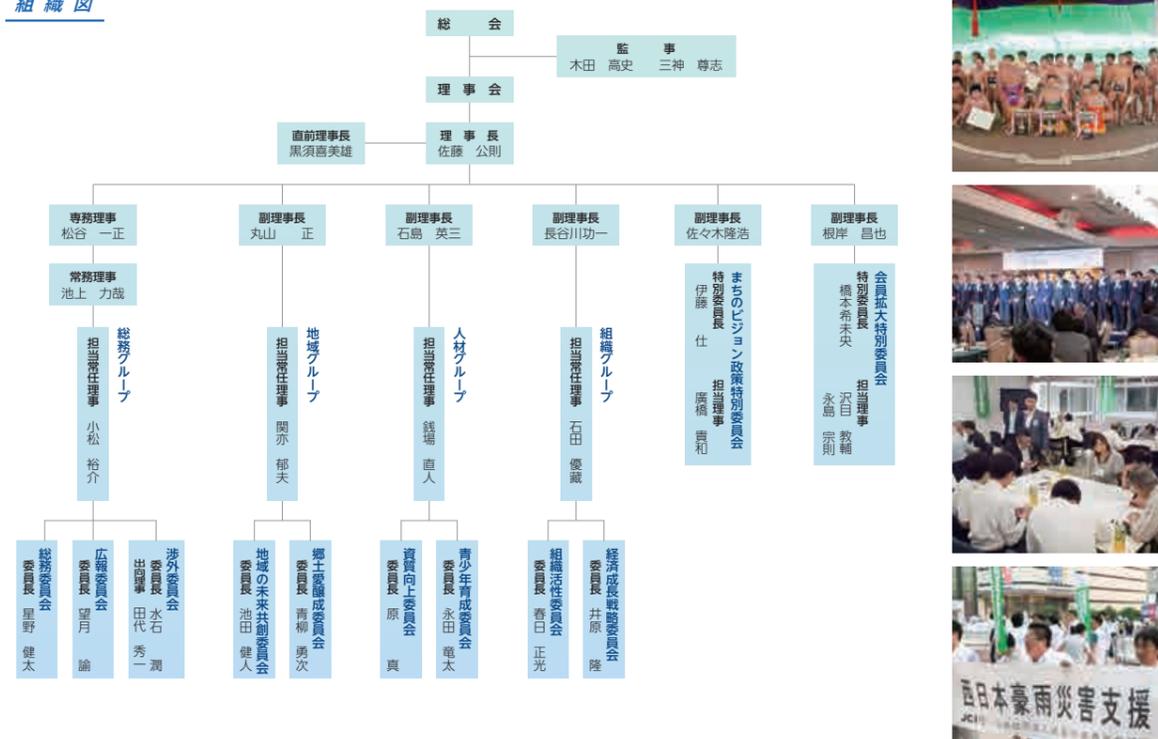
基本方針

これまでの運動を基にした
輝かしいまちの未来の創造
活力あふれるまちをつくる人材育成
郷土愛を持った市民がつくる魅力あるまちづくり
運動の効果を最大限に高める組織づくり



第23代理事長 佐藤 公則

組織図



まずは公益社団法人埼玉中央青年会議所の25周年に心よりお祝いを申し上げますとともに、青年の活動にご理解をいただき、支えてくださる関係各位の全ての皆様に心より感謝申し上げます。

さて、この25周年を迎えた2020年に、我々人類は大きな困難を迎えました。世界的な感染症の流行により、今まで当たり前に出たことが出来なかったり、やりたいこともできず制限されてしまったり、誰も想像していなかった世の中へと変貌してしまいました。現役会員の皆様におかれましても悔しい思いをしていらっしゃるのではないかと存じます。今まで通りのことは出来ないかもしれませんが、今だからこそ青年会議所に出来ることはきっとあるはず。私も現役時代には青年会議所にたくさんのことを教えてもらいました。数々の修練を与えていただきましたが、いつでも仲間達の支えの中で乗り越えてきました。きっと志を高く持てばこれからの現役の皆様も、乗り越えられない試練は無いと思います。世のため人のためが自分のためになります。地域や世の中がより良くなることを考え、活動をしていけばそれが自己の成長にもつながります。

いつの時代も世の中を変えてきたのは青年の力です。青年の力はあらゆる価値の根源です。これからの新しい時代に青年会議所の皆様が先導者となり、感謝の心を忘れずにみんな笑顔で、益々ご活躍いただきますことを祈念致しまして、私からのご挨拶に代えさせていただきます。この度はおめでとうございました。

2019

基本理念

「継往開来」

基本方針

未来を担う人材の育成
輝かしい地域未来の創造
次代に繋ぐ組織の構築
多様性豊かな人材の拡大

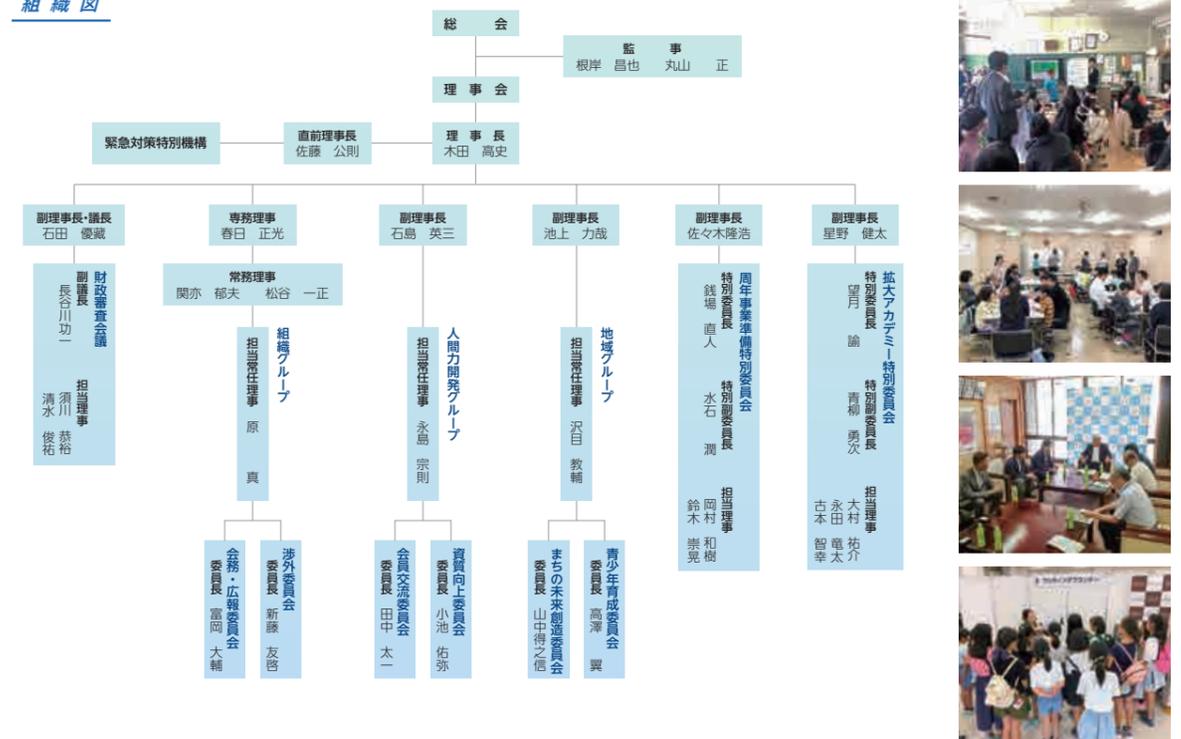
スローガン

～輝かしい未来のための挑戦～



第24代理事長 木田 高史

組織図



私が理事長職をお預かりした第24代としての2019年は、平成から令和へと元号が移り変わる節目の年でした。先人が築き上げてきた埼玉中央青年会議所という崇高な組織において、恐れ多くも会社員である私が理事長に立候補させていただき、到底経験することのできないであろう、組織の長として1年間、果敢に挑戦をさせていただきました。入会をした当時、理事はおろか理事長職を務めさせていただくなど思いもありませんでしたが、入会をして会費を納めている以上、良い意味で使い倒して自己成長する必要があるのだと改めて思います。それは、少し無理してでも様々な機会が訪れた時、果敢に挑戦する心構えなのだと思えます。

青年会議所で大切なのは、与えられた役職を演じるのではなく、それぞれの職責に真剣に向き合い、自ら考え行動することです。ですから上手にこなせるのか？ではなく、精一杯邁進できるのか？が重要です。機会が提供される青年会議所では、誰にでも挑戦する機会があります。

何もしないでも、40歳という年齢に達すれば卒業するのが青年会議所です。40歳までの期間をどのように過ごすのかにより、その後の人生は大きく変わると信じています。また、大変な思いをしたからこそ、知らず知らずのうちに自身の価値観を豊かにしていくのだと強く思います。大変とは「大きく変わる」チャンスです。連綿と受け継がれてきた埼玉中央青年会議所という学び舎を是非使い倒していただきたいです。

新型コロナウイルスの影響で、新しい生活様式が確立していく中であっても、果敢に挑戦し、地域を牽引するリーダーであり続け、さらなる発展に多くのメンバーで力を合わせていきましょう。



第66回全国大会 埼玉中央大会

大会
テーマ

「運命共同体」

2017.9.28 Thu. - 10.1 Sun.

大会実績
合計登録参加数

15,221名

埼玉中央青年会議所は「いつか全国大会ができる青年会議所に」との夢をもち、5つの青年会議所の統合により設立されました。2017年、受け継がれてきた想いはついに形となり、我々の主管により史上初となる埼玉での全国大会「埼玉中央大会」開催が実現しました。1万5千人を超える青年会議所のコンベンション開催にあたっては、行政、諸団体、地域の皆様、全国のメンバー、先輩方にお支え頂きながら取り組み、この地のちからを全国に発信し大会を大成功に終える事ができました。

「運命共同体」をテーマに、人の繋がりを形にする事ができ、我々は、地域内外にわたる多くの絆と共に、今後も時代の変化に伴う様々な出来事に対して臆する事なく、正面から真摯に向き合い解決に導いていく強い志を改めて手にしました。

大会シンボルマーク



大会を通じ696LOMが「運命共同体」という大きな和を成す姿を「球体」で、そこから誰もが夢を描ける日本へと回帰する姿を「稲穂」で表現しています。

第66回全国大会埼玉中央大会 開催理念

「新現代」という新たな時代に突入している今、我々はこれまで65年もの長きに渡り連綿と積み重ねられ、受け継がれてきたJCという大なる遺産に秘められた力を最大限に発揮し、新たな時代を切り拓いていかなければなりません。

2400年前に創設された武蔵一宮氷川神社を心の拠り所として中心に栄えたこのさいたま地域は、江戸時代には宿場町として人々が行き交い栄えてきました。しかし、明治以降、交流の手段が鉄道などへと転換する中、243戸の住居しかないまでに衰退してしまいました。地域の未来を案じた先人たちは、大宮駅の誘致活動、土地や資材の無償提供といった未来を見据えた行動を起こし、大宮駅を開設し、鉄道の町さいたまの礎を築きました。近年では平成の大合併によるさいたま市の誕生に先駆け、5つのLOMの統合により埼玉中央JCが誕生し、新たな夢へと歩み始めたように、さいたまには新たな時代を切り拓く原動力として「夢の力」が根付いています。

自覚と気概の溢れるJAYCEEがさいたまの地に一堂に会し、「夢の力」を体感することで、運命共同体という「和」の国柄を再認識し、1つの目標に向かって未来への夢を描き歩み始めます。

第66回全国大会埼玉中央大会では、運命共同体となったJAYCEEが未来への夢を描き歩み続けることで青年会議所に自立と共助をもたらし、誰もが夢を描ける日本へと導く大会とします。



66回目にして
初となった
埼玉県での
開催

公益社団法人埼玉中央青年会議所 PRスピーチ

今から52年前、新日本の再建を志とした先人たちが私たちの地域に新たな青年会議所を発足させました。夢を育めるまちを目指して、先人たちはたゆまぬ努力を続けてまいりました。そして時がたち1996年、未来の都市構造実現のため四つの青年会議所を解散させ新たに埼玉中央青年会議所が誕生いたしました。

それから5年後の2001年、さいたま市の誕生に私たちの想いを結びつけることができました。これは未来を切り開いていこうとする率先垂範の切実な形なのです。まちの将来を思い未来を切り開いてきたのは私たち埼玉中央青年会議所メンバーの誇りであります。

その象徴の一つに「浦和レッズの誘致」があります。これは青年会議所が中心となって当時は山を動かすほどいわれた誘致を成し遂げたのです。私たちはこの積極果敢に挑戦するまちづくりの姿とひとの魅力を全国のJAYCEEに見ていただきたいのです。そして子供たちに大きな夢を描いていただきたいのです。なぜなら人が夢を持って行動するとき、それは何物にも変えられない大きな力となるからです。

いま日本は「2020年の東京オリンピック開催」という新たな夢が生まれました。それはきっと震災を乗り越え、この国は真の復興に向かうと確信しております。だからこそ、2017年夢のまちさいたまから夢の力を全国に発信しなければならないのです。必ず社会を変える原動力となります。

そして埼玉中央青年会議所が全国大会を開催することでさいたまから日本の運動を力強く発信し、日本の教示を取り戻し「逞しい国日本」を創造いたします。

2017年全国大会開催に向け私たちは全国のJAYCEEを迎える準備ができています。

「2017年度第66回全国大会埼玉中央大会」をどうぞ宜しくお願い致します。

第19代理事長 星野 真一

主管決定まで

- 2011年**
 - 12月 「第64回全国大会主管立候補」を総会決議
- 2012年**
 - 1月 関東地区埼玉ブロックにて立候補支援の可決承認をいただく関東地区協議会にて立候補支援の可決承認をいただく
 - 2月 「第64回全国大会予備立候補届出書」を提出
 - 3月 関東地区内、8ブロック協議会をPRオペザープ
 - 4月 全国大会運営会議が主催する主管セミナーを受講
 - 6月 「第64回全国大会主管立候補届出書」を提出
 - 7月 主管立候補LOM現地調査並びに対話集會を開催 日本青年会議所第7回理事会にてPR演説
 - 9月 日本青年会議所第9回常任理事会にてPR演説
 - 10月 第61回全国大会北九州大会で八戸青年会議所が主管獲得 全国大会に関する勉強会を開催
 - 12月 「第65回全国大会主管立候補」を総会決議

2013年

- 1月 関東地区埼玉ブロックにて立候補支援の可決承認をいただく関東地区協議会にて立候補支援の可決承認をいただく
- 2月 「第65回全国大会予備立候補届出書」を提出
- 3月 関東地区内、8ブロック協議会をPRオペザープ
- 4月 全国大会運営会議が主催する主管セミナーを受講
- 6月 「第65回全国大会主管立候補届出書」を提出
- 7月 主管立候補LOM現地調査並びに対話集會を開催 日本青年会議所第7回理事会にてPR演説
- 9月 日本青年会議所第9回常任理事会にてPR演説
- 10月 第62回全国大会北九州大会で広島青年会議所が主管獲得 全国大会に関する勉強会を開催
- 12月 「第66回全国大会主管立候補」を通常総会にて否決 全国大会招致に関する座談会を開催 「第66回全国大会主管立候補」を臨時総会にて決議

2014年

- 1月 関東地区埼玉ブロックにて立候補支援の可決承認をいただく関東地区協議会にて立候補支援の可決承認をいただく
- 2月 「第66回全国大会予備立候補届出書」を提出
- 3月 関東地区内、8ブロック協議会をPRオペザープ
- 4月 全国大会運営会議が主催する主管セミナーを受講
- 6月 「第66回全国大会主管立候補届出書」を提出
- 7月 主管立候補LOM現地調査並びに対話集會を開催 日本青年会議所第7回理事会にてPR演説
- 9月 日本青年会議所第9回常任理事会にてPR演説
- 10月 第63回全国大会松山大会で主管獲得

2015年

- 1月 京都会議に参加し、京都国際会館を中心に約30力所で第66回全国大会埼玉中央大会をPR
- 3月 第66回全国大会主管青年会議所現地調査並びに対話集會を開催
- 6月 日本JCジャがいもクラブ第44回東日本地区大会にてPR JCI ASPAC コタカナバル大会にブース出店

- 7月 サマーコンファレンス2016に参加し、第66回全国大会埼玉中央大会をPR
- 9月 創立20周年記念式典・祝賀会を開催し、OBや地域の関係者の方々に協力をお願い 第64回全国大会八戸大会に参加。大懇親会にて「さいたまグレイター」のブース出店

主管決定後の動き

2016年

- 1月 LOM内に全国大会実行委員会を設置以降、2016年中は毎月最低1回のペースで委員会を開催し、全国大会の準備に向けた議論が本格化 京都会議に参加し、京都国際会館を中心に約30力所で第66回全国大会埼玉中央大会をPR
- 4月 第66回全国大会主管青年会議所現地調査並びに対話集會を開催
- 6月 JCI ASPAC 高雄大会にブース出店
- 9月 第65回全国大会広島大会事前勉強会を開催
- 10月 第65回全国大会広島大会に参加。鍵の伝達を受ける 広島青年会議所と主管青年会議所引継ぎ会を実施 全国JCサッカー選手権大会仙台大会にてPR

- 11月 第65回全国大会広島大会事前検証会を開催 公益社団法人日本青年会議所全国大会運営会議2016年度・2017年度引継ぎ式が開催

2017年

- 1月 京都会議にて主管契約締結式を執行 全国大会ホームページ完成・リリース
- 2月 埼玉ブロック協議会合同所信伝達式に参加してPR
- 3月 公益社団法人日本青年会議所総会にて、PR 日本JCジャがいもクラブ総会・役員会 懇親会にてPR
- 4月 第67回全国大会主管青年会議所である宮崎青年会議所の現地調査並びに対話集會に出席 日本JCシニア会第75回役員総会、記念講演及び懇親会にて、PR
- 5月 「第65回全国大会主管立候補届出書」を提出
- 6月 大会事務局開局式 全国大会記念事業として、氷川参道での「夢の力」イルミネーションを開催 大会ステッカー・運命共同体バッジが完成 日本JCジャがいもクラブ東日本地区大会に出席し、PR 2020年度第69回全国大会主管立候補青年会議所である札幌JCの現地調査並びに対話集會に出席

- 7月 ポスター完成。各地委員会協議所並びに協力諸団体に発送 第66回全国大会埼玉中央大会LINEスタンプを配信 埼玉ブロック大会鴻巣北本大会に出席し、PR サマーコンファレンス2017に出席し、PR

- 8月 第66回全国大会埼玉中央大会総決起集會並びに懇親会を開催 日本JCジャがいもクラブ全日本選手権大会及び60周年記念祝賀会に出席し、PR 東海フォーラム2017にて、PR 第65回関東地区大会つくば大会にて、PR

- 9月 通常総会及び創立記念パーティーを執り行う 中国地区コンファレンス2017 in倉敷にてPR 日本JC全国大会埼玉中央大会 シニア全国大会 合同(拡大)実行委員会開催 第8回全国大会運営会議の全体集會をさいたまの地で開催



平成29年9月29日 埼玉新聞

大会各ファンクション

1日目 9月28日(木)			
事業名	時間	場所	参加対象者
大会成功祈願	9:00~10:00	武蔵一宮氷川神社	【対内対象者】 日本JC役員・日本JC事務局長・埼玉ブロック協議会会長・主管LOM理事長・全国大会運営会議議長・実行委員長
市表敬訪問	10:45~11:15	さいたま市役所	【対内対象者】 会頭・副会頭・専務理事・関東地区担当常任理事・埼玉ブロック協議会会長・主管LOM理事長
県表敬訪問	12:00~12:10	埼玉県庁	【対内対象者】 会頭・副会頭・専務理事・関東地区担当常任理事・!!!当常任理事・埼玉ブロック協議会会長・主管LOM理事長
会頭記者会見	12:30~13:00	埼玉県庁	【対内対象者】 会頭・担当副会頭・専務理事・担当常任理事・主管LOM理事長
開会式	17:00~18:00	埼玉スタジアム2002	【対外対象者】 埼玉県知事・さいたま市長 【対内対象者】 日本JC役員・主管LOM理事長・日本JC出向者・副主管LOM理事長・実行委員長・各地会員会議所会員
ウェルカムレセプション	18:30~19:45	埼玉スタジアム2002	【対外対象者】 埼玉県知事・さいたま市長 【対内対象者】 日本JC役員・主管LOM理事長・日本JC出向者・副主管LOM理事長・実行委員長・各地会員会議所会員・一般市民
2日目 9月29日(金)			
理事会並びにブロック会長会議	9:00~12:00	パレスホテル大官(ロースルーム)	【対内対象者】 日本JC役員・理事会構成メンバー・ブロック会長・主管立候補LOM・各地会員会議所会員
総会	13:30~15:00	大宮ソニックシティ(大ホール)	【対内対象者】 日本JC役員・主管LOM理事長・理事会構成メンバー・ブロック会長・日本JC次年度役員候補者・日本JC次年度理事候補者・日本JC次年度ブロック会長候補者・主管決定LOM理事長・各地会員会議所理事長
政策AWARDS 2017	15:15~17:15	大宮ソニックシティ(大ホール)	【対内対象者】 日本JC役員・主管LOM理事長・理事会構成メンバー・ブロック会長・JCI関係役員・実行委員長・日本JC次年度役員・次年度主管LOM理事長・次年度実行委員長・各地会員会議所会員
大懇親会	18:00~20:00	さいたまスーパーアリーナ(コミュニティアリーナ)	【対外対象者】 外部協力者 【対内対象者】 各地会員会議所会員
さいたまグルメ天国	16:00~21:00	さいたまスーパーアリーナ(コミュニティアリーナ)	【対外対象者】 外部協力者、一般市民 【対内対象者】 各地会員会議所会員

全国大会を通じた地域との関わり

この地のちからを発信するため、青年会議所運動の更なる浸透のため、2014年の埼玉中央大会主管決定後、そのスケールメリットを活かして我々の発信力をより高め、明るい豊かな社会の実現を現実とすべく、地域市民や諸団体を巻き込む様々な協力事業を展開してきました。

- 2015年**
 - 2月 第1例会 異業種交流会～名刺交換の極意教えます～
 - 4月 第1例会 子育てを頑張っているパパ、ママ最近笑ってますか?「親の背中の見せ方」
 - 5月 さいたま市ばらまつり2015～JCは～とフルローズ2015～
 - 8月 第1例会 創ろう!食べよう!「SAIパスタ」～希望のちからでまちづくり～
 - 9月 伊奈町いきいきミーティング「伊奈町町民討議会」
 - 10月 魅力発見 さいクルSHOW!
- 2016年**
 - 3月 第1例会 ～人が集う魅力あるまちづくりとは～
 - 7月 希望(ゆめ)のちからイルミネーション
 - 10月 ～起立!日本語の授業言霊のちから～

全国大会を終えて

「LOM」への影響

埼玉中央青年会議所が連綿と引き継いできた、周りの人のため、まちの未来のために、己の身を切り率先して行動する精神で、新たな時代を切り拓いてきた「夢の力」を広く発信したことで、私たちの描くまちづくりのビジョンを加速させることが出来たとともに、全国大会という価値ある体験を通じメンバー一人ひとりに圧倒的な当事者意識が芽生え自己の成長に繋がり、更には地域の行政・企業・各種団体・一般市民に今まで以上に青年会議所の存在をアピールし信頼関係を構築することが出来ました。

「地域」への影響

全国大会を通じ全国各地から集まったメンバーが埼玉の魅力に触れファンになり今後、埼玉に幾度も訪れるきっかけを作ることが出来ました。更には全国大会を通じて埼玉の新たな魅力を生み出したことにより「夢の力」溢れるまちの更なる活性に繋がりました。

「主催」への影響

日本青年会議所として第66回全国大会埼玉中央大会では、1年間の政策と運動の成果を共有し、大懇親会で696LOMの繋がりを深め全国に展開するJCのネットワーク力を高めることで、696LOM、35,000名が運命共同体として大きな和を作ることができました。

「参加者」への影響

日本青年会議所の政策の検証と次代への継承の場となった全国大会に参加することで価値ある体験ができ、「夢の力」を体感することで、運命共同体という「和」の国柄を再認識し、誰もが夢を描ける日本へと導く機会となりました。

3日目 9月30日(土)

「国家フォーラム」～保守日本JCの復活～	13:00~14:00	大宮ソニックシティ(大ホール)	【対外対象者】 一般市民 【対内対象者】 各地会員会議所会員
大会式典式典の部	15:30~17:45	さいたまスーパーアリーナ(メインアリーナ)	【対内対象者】 歴代会頭・歴代副会頭・歴代専務理事・来賓・日本JC役員・主管LOM理事長・理事会構成メンバー・ブロック会長・JCI関係役員・実行委員長・日本JC次年度役員・年度主管LOM理事長・次年度実行委員長・各地会員会議所会員
大会式典卒業式の部	18:05~19:00	さいたまスーパーアリーナ(メインアリーナ)	【対内対象者】 各地会員会議所会員
歴代会議	18:00~18:30	割烹旅館 東山	【対内対象者】 歴代会頭・歴代専務理事

4日目 10月1日(日)

2018年度理事長予定者セミナー	9:30~11:00	浦和ロイヤルバインズホテル	【対内対象者】 会頭・次年度会頭予定者・日本JC次年度役員予定者・日本JC次年度ブロック会長予定者・日本JC次年度理事予定者・次年度理事長予定者
閉会式	11:30~12:15	浦和ロイヤルバインズホテル	【対外対象者】 埼玉県知事・さいたま市長 【対内対象者】 会頭・副会頭・専務理事・関東地区担当常任理事・担当常任理事・埼玉ブロック協議会会長・全国大会運営会議議長・主管LOM理事長・実行委員長・各地会員会議所会員
解団式	12:30~13:00	浦和ロイヤルバインズホテル	【対内対象者】 会頭・副会頭・専務理事・関東地区担当常任理事・担当常任理事・埼玉ブロック協議会会長・全国大会運営会議議長・主管LOM理事長・実行委員長・各地会員会議所会員



公益社団法人埼玉中央青年会議所
第66回全国大会 埼玉中央大会 大会実行委員長

長谷川 功一

今までの人生で、一分一秒を惜しんで何かに向き合ったことはあっただろうか。

1953年に第1回名古屋大会から、連綿と受け継がれ毎年異なる地域で途切れることなく開催し、青年会議所メンバーに大きな成果とその地域に活性化を生み出してきました。

全国大会は「青年会議所運動の縮図」である。

公益社団法人日本青年会議所 第66回全国大会埼玉中央大会は前年度開催の広島大会より、伝統と誇りの全国大会の鍵を継承させて頂き「運命共同体」の大会テーマのもと、2017年9月28日から10月1日の4日間にて開催をさせて頂きました。

大会構築にあたっては、埼玉中央青年会議所の歴史を重んじながらそして、埼玉県で初となる全国大会として決して恥じる事のない全国大会にすると共に日本青年会議所のスケールメリットを存分に意識しながらメンバー一人ひとりが向き合い、自分の力で一歩踏み出すことが、どれだけの価値があるのかを伝播してきました。

大会を通じ得られたものは価値観であり、強烈な原体験であると共にこれをどの様に活かすは個々に委ねられますが、まだ全国大会を主管していない地域があ



るならば、我々青年の無限の可能性と日本青年会議所のスケールメリットを掛け合わせ、自己成長と地域の活性化となる起爆剤に活かしましょう。

全国大会があるから得られるものがあるわけではない。全国大会と本気で向き合ったから得られるものがある。全国大会は、青年会議所運動の縮図だ。

この掛け替えのない目に見えないものに現役として身を投じられたことに、今まで関わっていただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。そして仲間との絆を胸に、これからも新たな時代を切り拓く原動力となる夢の力を意識し、まずは我々一人ひとりが夢を描き、運命共同体という地球論のもと、夢に一切の妥協を排して邁進して参ります。

希望(ゆめ)のちから イルミネーション

大宮の夜を彩る夏のイルミネーション

地域内の関係諸団体に協賛・協力いただきながら、鐘塚公園の木々や植木などをイルミネーションで装飾する事業です。この地に住み暮らす人々が、自らのまちの発展のために希望(ゆめ)を持ちカタチに変えていこうとするちからを光で表現しており、夏を彩る光に地域市民が集まり、憩いの場となります。住みやすいまちとして発展してきた私たちの活動エリアですが、居住地域に対して「親しみ」や「思い入れ」を持続的に創出していくためには、常にまちの新たな魅力を生み出していく必要があります。イルミネーションが継続し地域の魅力として発展することで、愛着心の湧くまちの象徴として定着しています。

新たなまちの魅力に

本年で5年を数えることとなる「希望(ゆめ)のちからイルミネーション」。地域を巻き込む大きな事業とすべく、2017年には、第66回全国大会のスケールメリットを活かし、日本で一番長い参道である氷川参道にて「全国大会記念事業」として規模を拡大し実施しました。

点灯式当日には、さいたま市長 清水 勇人様をはじめ、さいたま竜神まつり会やさいたま商工会議所青年部などにお越し頂き、埼玉大学吹奏楽部の演奏等により盛り上げていただきました。予想を多く上回る1万人近くの方に足を運んでいただく事となりました。我々の活動エリアにある、鉄道や盆栽、サッカーなど多くの潜在的な魅力の、その特色に気づく機会も創出しつつ、新たな魅力である本イルミネーションに感動・共感していただきました。

本事業は、年度ごとに時勢を取り入れた工夫を盛り込みながら常に発展を続けています。「希望(ゆめ)のちから」の更なる浸透に向けて、地域市民や行政・関係諸団体とともに引き続き歩んでまいります。

「夢の力」キャンパス

さいたま市、上尾市、伊奈町の全ての高等学校と大学及び短期大学、全53校にご協力頂き、各校1枚ずつ、A2サイズ(縦59.4センチx横42.0センチ)のパネルを配布し、「夢の力」をテーマにした絵や文字など自由に作品として作成して頂き、作成して頂いた夢溢れる作品を会場に展示しました。



「夢の力」エクスプレス

電車を模った縦200センチx横200センチの7両編成の虹色パネルを2セット設置し、当日の来場者にドリームチケットに自分の未来を描いて頂き、そのドリームチケットを貼り付けて頂きました。

この「夢の力」エクスプレスでは、文字にして具現化する事で自分自身の夢を再認識する事が出来ます。そして、多くの夢が溢れるパネルを見ることで、「夢の力」を体感して頂き、市民意識の向上につながります。また、鉄道博物館を管轄する公益社団法人東日本鉄道文化財団などの関係者団体との連携を強化する事ができました。



2020年度開催にあたって WITHコロナ時代とSDGs

新型コロナウイルスにおける医療現場の最前線で闘っている方々に感謝の意を伝える運動を発信している、「MAKE IT BLUE JAPAN実行委員会」とパートナーシップを組み、イルミネーション電球に「青」を多く使用し、「LIGHT IT BLUEキャンペーン」を行います。医療従事者への感謝と共に、コロナ禍だからこそ利他の精神を啓蒙し、大きな結束と一体感を与えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



希望(ゆめ)の撮影スポット～MAKE IT BLUE JAPAN～

来場者自身が発信できる撮影スポットをつくります。毎年地域市民から大変好評である撮影スポットを継続し、今年度は違うデザインのイルミネーションを設置します。期間中は埼玉中央青年会議所メンバーが撮影スポットで待機し、撮影のお手伝いや、メンバーのカメラでも撮影します。撮影した写真は本人に許可を頂いたものは、各SNSページに掲載し、Facebookページから当日の写真をダウンロード出来るようにします。写真を公開して発信力を高め、写真を見た人が興味を持ち、来場につながるようになります。

希望(ゆめ)のまちパネル2020

自分の希望(ゆめ)と向き合ってもらう機会を設けます。毎年アンケートや来場者から、普段夢について話し合うことがないのでとても良かったという声があり、この事業をきっかけに、家族や友人と希望(ゆめ)について語り合う機会を作り、参加頂いた方同士の繋がりを深めます。本部テントに、ステッカーを用意し、参加者に将来の希望(ゆめ)を書いて頂きます。パネル2020にはSDGsロゴを使用し、SDGsの推進と、本例会に関わるゴールについて4つのパネル化をし、このまちと人と希望(ゆめ)の繋がりを感じてもらいます。また、SDGsをわかりやすく説明する資料を展示します。日中の撮影スポットになるようなパネルにするのを来場者の方々にメンバーが説明し、地域市民の方々にもこの事業と一緒に創っていく一体感を感じてもらいます。

希望(ゆめ)のテイクアウト祭り

8月29日(土)は、地域に根ざした地元飲食店による屋台を出店します。多くの地域市民、関係諸団体、行政との連携を強化する事で大きな一体感を生む事ができます。また、住み暮らす地域の潜在的な魅力に気づいて頂き、この地域により強く愛着を持ってもらいます。当日の売上で一時的な利益を得るという目的ではなく、希望(ゆめ)のテイクアウト祭りをきっかけに、出店者のお店ヘリピーターとして持続的に利用してもらおう事を目的とします。テイクアウト形式ではありますが、環境美化並びに地域市民に配慮する為、公園内にゴミ箱を設置します。

本例会のSDGsゴール及びその説明

- ゴール3：すべての人に健康と福祉を。
▶「COVID-19」への対策及び影響を受けた事業に対して支援を行います。
- ゴール8：働きがいも経済成長も。
▶希望(ゆめ)と向き合ってもらい、未来に向けて躍進するきっかけを創ります。
- ゴール11：住み続けられるまちづくりを。
▶本事業が地域の魅力として発展し、愛着心の湧くまちの象徴として定着させていきます。
- ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう。
▶地域市民、地域諸団体、行政と連携し、パートナーシップを推進して事業の推進を行います。

自分の希望(ゆめ)と向き合ってもらうことにより、直接的に関わるゴールを選定しました。このSDGsゴールをきっかけに、メンバーと参加者がコミュニケーションをとりながら、参加者の希望(ゆめ)がどのゴールに当てはまるか考えていきます。【希望(ゆめ)のまちパネル2020】をコミュニケーションツールの1つとして利用しながら、SDGs・まち・人・希望(ゆめ)の繋がりを感じてもらいます。

開催期間：2020年8月29日(土)～9月12日(土)18:00～21:00
(ただし8月29日は19:30～、9月12日は～19:30)
※8月29日は18:30より点灯式、9月12日は19:30より消灯式を行います。

会場：鐘塚公園(大宮駅西口ソニックシティ手前/さいたま市大宮区桜木町1-7-8)



2017年 メディア等掲載・放送実績
6/15 大宮経済新聞
6/17 J:COMさいたま『ディリーニュース』
6/18 朝日新聞埼玉版
6/18 埼玉新聞
6/29 CS放送『TBSニュースバード』内
天気予報コーナー
10/17 TBS火曜ドラマ『監獄のお姫様(主演:
小泉今日子)』第1話ロケ
日本政府観光局インバウンド向けホームページ
埼玉県ホームページ
さいたま市報6月号
さいたま市インバウンド向けFacebook(中国語)
さいたま市ホームページ

はじめに

我々は1996年の創立以来、20年という歳月を愛する街と向き合い、共に歩んできました。2001年には旧浦和市・旧大宮市・旧与野市が全国でも先例となる合併を結実し、その2年後には政令指定都市へと移行しました。更に2005年に旧岩槻市との合併を実現する事で、126万人都市として現在の「さいたま市」となりました。上尾市、伊奈町を含め153万人規模となる地域市民を活動エリアとして運動する我々は2012年に公益社団法人埼玉中央青年会議所として新たな歩みをはじめました。そして2017年には悲願であった全国大会埼玉中央大会を主管会議所として開催しました。目まぐるしく変化する社会情勢の中、この地域は少子高齢化や経済のグローバル化、地球温暖化の進行、地方分権改革の進展、東日本大震災の発生を契機とした安全・安心意識の高揚など、我々を取り巻く環境は日々変化しつつあります。公益社団法人埼玉中央青年会議所は創立より20年という歳月を刻んだ今、新たなビジョンを掲げ、地域の未来を先導する先駆者としての役割と市民と地域諸団体、そして行政をつなぐハブとしての役割を担い、地域一丸となった明るい豊かな社会実現に向け、率先垂範の精神で運動展開を行っていきます。

ひとづくり

・青少年の心豊かな成長

【共に「学ぶ」触れ合う」事業の推進】

親の背中を見て子供は育つという言葉をよく耳にします。しかしながら子供との触れ合いを通じ、子供から大人が教わる事で大人が成長する事も多くあります。この地域にある文化・芸能・自然、又は地域社会を子供と共に学ぶ事で郷土愛を育み、我々の地域の魅力を継承しながら身近な事柄をテーマに、触れ合いを通じ地域の魅力発掘を行います。同時に子供と共に外出し、人の心に触れる機会や、自然との触れ合いを通じる事で得られる、本物教育、本物体験の機会を増やします。夢や希望、倫理、道徳、規範、公共心の育みが醸成できる事業を推進します。

【家庭-学校-地域-青年会議所 連携した事業展開】

子供たちの心豊かな成長には大人との交流が不可欠です。親、学校、地域社会が交流を深め、それぞれの立場における役割を自覚し、独自の地域教育の質を高める事が必要と考えます。常に子供たちを見守る地域社会の形成は、教育力の向上をはじめ、健全な青少年の育成を実現します。また、青少年といった広い観点で考えると、中学生や高校生を対象とした新規事業や、学校、地域との協同事業構築も必要と考えます。家庭、学校、地域との連携を青年会議所が率先して行う事で、地域社会の力による子供を育てる環境創りを展開します。

【未来に責任を持つ人材の育成】

明るい豊かな社会をつくる為には、未来を担う青少年が主体的に行動できるように導いていく必要があります。主権者の意思表示が必要不可欠です。選挙は主権者として、その意思を政治に反映させることのできる重要かつ基本的な機会です。そして、青少年が地域の課題に対して当事者意識を持ち主体的に行動する事が、地域の未来へと繋がります。我々は、青少年が社会の中で連携・協働し主体的に行動できる力を育めるよう積極的に事業を推進していきます。

・人づくりはまちづくり

【地域リーダー育成事業の推進】

地域活性化の基本的要素として人材力の強化が考えられます。地域活動の中心を高年齢層が担っている現状を踏まえ、今後、多角的な視点より積極的参画を目的とした青年・壮年層に対する地域リーダー育成事業を多く開催します。地域における問題解決に向けて積極的に行動できるソーシャルアントレプレナーを育成し、これからの時代を担う青年、壮年層の意識変革と協働意識を醸成します。

【わがまちを愛する人材の育成】

我々の活動エリアには、江戸時代より受け継がれる人形文化、関東大震災の際東京から疎開した盆栽職人から生まれた盆栽文化、埼玉サッカー発祥の地として形作られたサッカー文化、国鉄大宮工場にちなんだ鉄道文化、日本近代漫画の祖・北沢楽天にちなんだ漫画文化、夏に各所で行われる祭り文化、紀州藩邸に納めていたと言われる鰻、公園に咲き誇るバラなど誇るべき文化や地域資源が多数存在します。わがまちを愛するきっかけとしてこれらの伝統文化を確りと理解しながら、継承、振興や地域資源の活用に取り組む人材の育成を推進します。

まちづくり

・地域ブランディングの推進

【文化と歴史を活かした事業展開】

我々の活動地域は古くから重要な役割を担ってきました。武蔵一ノ宮氷川神社の門前町として大宮が、中山道と日光街道の宿場町として浦和・上尾・岩槻が、関東地方の治水・検地等に貢献した伊奈忠次公にちなみ名付けられた伊奈町が栄え、多くの人々が行き交うことで様々な文化が流入し、彩り溢れるまちとなりました。

現在では、首都圏や主要都市への各種交通網が整備され、東日本の玄関口として発展しており今尚、目覚ましいものがあります。この様に地の利に恵まれた地域であるからこそ、現在でも全国各地より人々が明るい未来を描いて移り住む『希望(ゆめ)のまち』として発展を続けています。

文化の発展とは、文化の現状維持を推し進めるものではなく、歴史を紡いだ先人達の文化を尊重し、継承しながらも状況に応じ昇華させ続ける事で文化の発展はなるものと考え、愛するまちの魅力を発信する事業を展開します。

【新たなまちの魅力発信】

地域の未来を担う我々青年が、時代のニーズに則した新たなまちの魅力を創造し、発信することも重要です。我々の活動エリアでは、サッカー、バスケットボール、野、バレーボールなどの分野で実績ある男女の実業団チームやプロチームが拠点を置き、地域に根ざした活動を行っています。行政においても、市民マラソンや自転車レース、サッカーイベントなど多様な事業や、スポーツを身近にするまちづくりを展開しています。学校、スポーツ団体、地域諸団体、行政との連携・協働の下、スポーツをする人、観る人、支える人を増やし、市民の体力の向上や健康の保持増進のみならず、地域間や多世代の人々の交流の推進や、地域独自の文化の創出、地域の誇り・愛着の醸成に取り組むことで、スポーツ都市としての新たなまちの魅力を創造し発信します。

・地域コミュニティの醸成

【地域力の創造推進】

地域課題の多様化により、多くの地域市民の参加が求められる一方、地域活動に対する参加者が少なくなっています。また、住民にとっては地域活動に参加しづらく、住民意見が自治体等の運営に反映されないという意見があります。生活形態や生活圏の広がりから居住区への関心が薄れ、新たな転入者や青年、壮年層の多くは地域活動への参加、もしくは取り組み方法を知る機会が少ない事があります。これらの課題解決のため、地域市民の交流機会を創出することで、自身の居住区への関心を高め、地域コミュニティが活発になるよう事業の推進を行います。また、参加しやすい仕組みづくりや、専門家の知見、住民のスキルを活かした地域団体等の運営ができるよう地域への働きかけを行います。さらに、地域の核としての学校や、地域で活動する諸団体同士の連携を深めるきっかけづくりを行います。その他、地域諸団体からの積極的な情報発信を支援します。

【防災まちづくりの推進】

東日本大震災は東北地方沿岸部に壊滅的な打撃をもたらし、我々の

日常生活のあり方すらも考え直させる大きな出来事となりました。一方、大きな混乱状態にありながらも互いを思いやり、秩序を乱すことなく行動した国民性は世界各国から賞賛を受ける程でもありました。防災に強いまちは住みよいまち、魅力あるまちでもあることから、防災における各行政との連携はもとより、公助の限界を認識するとともに、自身の命は自分で守る自助、そして互いに助け合う共助の対応力向上に向け、地域市民に発信する事業を展開します。

【誰しもが輝ける 明るい豊かなまちづくり】

少子高齢化や働き手不足が問題になる一方で、社会で活躍できる能力があっても活かす機会に恵まれない人々があります。このまちの地域市民一人ひとりが社会で活躍できる機会を創出することが、我々に求められている課題です。様々な状況にいる方々と向き合い、共に育むことで、明るい豊かな社会へと繋がります。一人ひとりが主体的に自分自身を表現し活躍する事ができる状況を、我々が先駆けとなり創出し、誰しもが輝ける未来に向けて地域諸団体、そして行政などと共に環境を築いていきます。

・国際社会に向けた取組

【海外青年会議所との交流】

世界会議やアスパックに積極的に参加する事で、各国の特色を活かした国際交流を展開していきます。相互の文化交流を多くの地域市民と共有する事で、都市が国家をリードするよう積極的なアプローチを行い、文化・スポーツ・ビジネス等多面的な国際交流が行われる地域を目指し運動を展開します。

【国際交流豊かな環境づくり】

官民一体の戦略と施策を進めたことで、日本は海外からの関心が高まり、多くの外国人たちと交流する機会を得る事ができる環境にあります。我々が目指す国際交流とは、国や地域の枠を超えた人と人が共に語りあい、共に笑い、共に調和を育むことのできる地域になっていくことです。公益社団法人埼玉中央青年会議所は様々な国の人や、その文化と共生できる団体です。この地域で多くの訪日外国人との交流が生まれる為の環境づくりに、我々は積極的に参画していきます。

組織づくり

・会員拡大

40歳で卒業を迎える我々の限られた活動期間において、会員拡大は私たちと志を同じくする仲間を集める事と同時に、公益社団法人埼玉中央青年会議所を活性化し、更に発展させる重要な活動でもあります。明るい豊かな社会の実現に向け、全てのメンバーが青年会議所運動を具体的に理解し、当事者意識のもと、会員拡大に積極的に参加する事で、地域全体に我々の運動を深く浸透させていかなければなりません。青年会議所運動の向上と共に地域の信用・信頼を築き、全メンバーが一丸となった会員拡大の実現は即ち、公益社団法人埼玉中央青年会議所の地域における評価でもあります。集の力を強め、大胆な運動展開を可能にする事で、地域のための弛まぬ進歩と、率先垂範の精神と覚悟を持って、地域社会を牽引できる次代の旗手を目指していきます。

・会員研修

明るい豊かな社会の実現に向けて、我々メンバーの資質向上が何よりも重要となります。個々のメンバーによる飽くなき自己研鑽が資質の向上となり、会員同士互いに切磋琢磨しあう良好な人間関係は、組織基盤を強めると共に、強固な信頼関係を生み出します。積極的な自己研鑽事業の推進は、品格ある青年としての運動の礎となり、更には地域の活力となり得ることで、オピニオンリーダーたる資質を身に付けていきます。その他、青年会議所には日本青年会議所、関東地区協議会、埼玉ブロック協議会、更にはJCIといった自己研鑽の場が多

くあります。これまでも多くの出向者を輩出し、出向先で活躍したメンバーは、公益社団法人埼玉中央青年会議所の中心的存在として活躍してきた実績もあります。青年会議所としてのスケールメリットを存分に活かし、広い視野と見識を高め、効果的な運動をこれからも継続的に行っていきます。

・諸団体との連携

我々の活動エリアには様々な青年団体・NPO・企業そして行政が積極的に地域行政や経済活動に関わっています。それぞれが独自に活動するのではなく、それぞれがしっかりと責任を自覚した上で横の連携を強化し協働しながら、進んで地域の活性化に関わる社会システムの構築こそがこれからの時代に必要とされる要件と考えます。「市民意識の高いまちづくり」を形成していく中で、率先垂範の精神を広く地域に広め、全国に誇れる地域主権型モデル都市を目指します。

・未来都市構想

【持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現】

我々の活動エリアの未来を継続的に発展させ続ける為には取り組まなくてはならない課題があり、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現が求められています。我々がこれらの課題を理解し地域の未来を担うオピニオンリーダーとして行動し、市民と地域諸団体、そして行政と強いパートナーシップを結び、青年会議所であるからこそできる運動を展開します。

おわりに

公益社団法人埼玉中央青年会議所はそれぞれが歴史と伝統を持つ青年会議所が統合し、創立から20年という歳月を刻み現在に至ります。先輩諸兄が築いた確かな軌跡をしっかりと受け継ぎ、更に昇華させながら次代へと紡ぐため、OB・シニア会との連携強化はもちろんの事、我々は己の行動に信念(使命感)を抱き高い志と大きな希望を持って行動しなければなりません。

このたび、公益社団法人埼玉中央青年会議所は2025年に向けた10年間のビジョンをここに策定しました。青年会議所は単年度制である組織体でありながらも、しっかりと軸を確立させることにより、各年度がしっかりと連携連鎖し、方向性を見失うことなくJC運動を展開していく事が求められます。青年会議所運動は40歳で卒業という限られた時間の中、限りのないまちの未来を真剣に考える事で、地域市民と共に発展し、明るい豊かな社会実現に向け、しっかりと歩を踏み出し、次代に胸を張って継承できるまちづくりを推進していきます。

語句解説

ソーシャルアントレプレナー 社会企業家。地域で問題を発見した際に、自ら能動的に問題解決に向けて行動を起こせる人材。

包摂(ほうせつ) 地域市民一人ひとりが潜在的に有する能力を発現できるように社会的に包み込むこと。

公益社団法人埼玉中央青年会議所
2015年発行
2019年改訂

2025年に向けての引継ぎ事項

我々の運動指針であるビジョン2015が改訂されました。社会が目まぐるしく変化し、人々の価値観が多様化する時代の中でも、地域のオピニオンリーダーとして公益社団法人埼玉中央青年会議所が活動していくために、次代のメンバーにおいては、ビジョン2015を確りと検証してもらい新たな地域の未来を創造して欲しいとの願いを込めて、引継ぎ事項と致します。

理事長 佐々木隆浩
直前理事長 木田 高史
監事 松谷 一正
石島 英三
副理事長 丸山 正
副理事長 銭場 直人
副理事長 春日 正光
副理事長 星野 健太
副理事長 池上 力哉
専務理事 関亦 郁夫
常務理事 望月 諭
常任理事 鈴木 崇晃
常任理事 富岡 大輔
常任理事 小池 佑弥

拡大アカデミー特別委員会

特別委員長 沢目 教輔
特別副委員長 井原 隆
特別副委員長 田代 秀一
担当理事 内山 泰宏
担当理事 長岡 輝憲
担当幹事 小林 徹
担当幹事 佐々木 涉
担当幹事 鷲谷 将太
伊藤 和 小泉 善一
熊谷 彰人 大上 康彦
田中 俊助 松村 祥平
森川 大輔 内藤 賢
岩本 隼児 大澤 竜晴
山口 佑季子 小河 大希
山田 友紀 島田裕美子
佐々木 聡 柴崎 正司
小宮 正大 児玉 陽介
森谷 大介 吉澤 裕太
片淵 恭利

周年事業特別委員会

特別委員長 三神 尊志
特別副委員長 田中 太一
特別副委員長 水石 潤
担当理事 尾花 瑛仁
担当理事 金子 剛久
担当理事 高澤 翼
担当幹事 斎藤堅太郎
担当幹事 酒井 達也
担当幹事 須川 恭裕
担当幹事 古本 智幸
越智 賢一 北西隆一郎
澤田 直樹 高橋 建太
竹内 達也 前島 悠希
森田 裕 竜也
小森 明夏 関口 亜耶
高谷大地朗 滝田 賢吾
田中 雄大

地域創造委員会

委員長 高子 景
副委員長 新藤 友啓
副委員長 平山 智史
浦上 聡 加藤 慎也
下村 匠 竹内 優騎
竹野 竜平 田銅 真己
田畑 寛樹 矢作 和徳
安部 洋平 加藤 太一郎
佐久間俊光 淡澤 徹
島村 直樹 竹鼻 秀央
谷 直樹 田淵 研

国際委員会

委員長 清水 俊祐
副委員長 梅村 昭文

副委員長 吉田 伸広
池田 良枝 伊藤 仕
白田総一郎 浦山 和也
河野 淳行 鈴木 康介
高林 雄也 チョウドリ拓也
椿 準一 石坂 将義
潮田 聡 澤田 純平
杉田 将大 高山 禎章
蛭田 裕也 南 まゆ子

資質向上委員会

委員長 石関 洋臣
副委員長 関根 大介
副委員長 長谷川利樹
安齋 認 井上 洋史
大熊 康之 小林 誉
鈴木 俊祐 多ヶ谷直助
永田 竜太 平石 昌之
伊奈 達也 小越 信吾
木村 恒平 小林 庸人
齋藤有友子 佐藤 拓磨
田村 亮一

青少年育成委員会

委員長 橋本 匡弘
副委員長 神田 俊平
副委員長 田村 嘉康
市川 卓弥 今井 洋太
加藤 礼二 谷藤 隼人
中村 翔 細谷 吉陽
村井 英樹 山岸 惠祐
石垣 健二 柿崎 亮太
金田 紳也 城處 満
小嶋 勇人 小嶋理恵子
田島 玲 田部井 良

渉外委員会

委員長 岡村 和樹
副委員長 中館 千恵
副委員長 渡津 一浩
會田 大輔 五十嵐 廣大
伊藤 啓介 金子 史敬
佐藤 孝剛 野口 征利
野口 恭功 松木 哲也
小林 幸平 地引 康英
野村 和久 松永 真吾
松本 正志 丸山 駿介

総務広報委員会

委員長 吉住 孔佑
副委員長 阿部 哲男
副委員長 野口 竜矢
市原 啓吾 宇敷 有亮
清水 孝磨 染谷 博之
長谷川卓哉 三原 龍太
横嶋 拓也 遠藤 憂子
片野 匠 葛谷 篤志
栗原 啓太 渊上 聡一
宮沢 歩 湯澤 嘉匡

議案審査会議

議長 丸山 正
副議長 大村 祐介
副議長 原 真
担当幹事 大澤 佑介
担当幹事 長谷川功一
担当幹事 向山 寛
宇田川高史 小谷 英嗣
齋藤 秀樹 吉岡 大輔
渡邊 健吾

勇往邁進

地域に響け!世界に届け!
Sustainable Impact



編集後記

埼玉中央青年会議所が誕生して四半世紀を迎える今年、新型コロナウイルス感染拡大という、だれもが予測しなかった事態に直面しました。この事態は、これまでの、そしてこれからの社会経済活動の在り方を問うきっかけとなりました。

そこで本記念誌は、埼玉中央青年会議所の創立までの経緯とその後の25年間の歩みを振り返って我々の運動の意義を改めて確認しつつ、改訂された運動構想ビジョン2015を通じてウィズコロナ、アフターコロナの未来を考え展望することを企図した構成となっています。

本記念誌の取材・編集を通じ、これまでの埼玉中央青年会議所が、社会変革を先導し、時代に合わせた変化を加速させつつも、明るい豊かな社会の実現というブレない価値観を維持し続けてきたことを実感しました。そしてこれからの時代においても、その姿勢は変わらないと確信します。

本記念誌を青年会議所関係者のみならず地域の多くの方にご覧いただき、更なる協働のきっかけになれば幸甚と考えております。

最後に、本記念誌の作成にあたりご協力いただきました先輩諸兄姉、地域諸団体、関係自治体の首長をはじめとする行政関係者の皆様に御礼を申し上げ、編集後記といたします。

周年事業特別委員会 特別委員長 三神 尊志

公益社団法人埼玉中央青年会議所
創立25周年記念誌

2020年9月発行

発行：公益社団法人埼玉中央青年会議所
〒330-0845
埼玉県さいたま市
大宮区仲町2丁目15番地
矢島ビル3階

制作：株式会社 秀飯舎